

【活動報告】

‘わりい’春節ミニコンサートに参加して 2010年2月14日 於：野津田の隠れ里・乃平庵

2月14日といえばバレンタインデーですが、今年は中国のお正月である春節の元日にも当たります。私たちコンサートの参加者20名は、この日にふさわしい雅なひとときを、中国の演奏家・銭騰浩さんと馬平さんのお二人とともに過ごしました。場所は町田野津田の隠れ里「乃平庵」。

ミニコンサートとはいっても、まずは演奏家と語らいながらのランチ(ケーキ&コーヒー付)、新しい企画の盛り込まれた演奏プログラム、乃平庵のすてきな落ち着いた部屋空間、そしてガラス戸の外に広がる自然空間という幾重にも観客を非日常へと誘ってくれるなかなかのコンサートでした。内容の充実に魅了され、今だ余韻に浸っています。

さて、このコンサートはお洒落な中国服をまとった男性二人、銭騰浩さん(笙)と馬平さん(中国木琴を含む打楽器)の共演に始まりました。続いて銭さんが、笙は楽器本体の下部にお湯を入れ体温と同じ位にしてから吹かないとリードが結露して音が出ないこと、笙で笛のように音を転がす場合は高音でやると対応できることなどを説明。また、演目の「草原騎兵」の情景と音との関係を部分部分に分けて話して下さいました。コンサート参加者の頭の中には、より鮮やかに生き生きと大草原の風景や人馬が遠くに近くによぎったことと思います。意外なことに笙をはじめ木管楽器は体力を使うようで、熱演の銭さんは汗びしょりでセーターを脱ぎに一時退場。

後を馬さんにゆだねるも、すぐに再登場した銭さんは特有の楽しいおしゃべりでコンサートを盛り上げ、馬さん演奏後もソロで格調高く心情のこもった音色を聞かせて下さいました。

引き継いだ馬さんも中国木琴について説明。中国木琴はロシアから伝わったこと、父上も木琴奏者だったこと、木琴の下部にあるパイプがないと響かないこと、木琴は黒檀でパチにはすべらないように皮が貼ってあること等々。そして馬さんの大きな体が打ち出す木琴の力強い響きや哀愁を帯びた響きにうっとりでした。

次にきょうのメインイベントともいえる、笙と打楽器をバックに吟じられる漢詩。彼らの背後には冬枯れの木々が風にゆれ、紅梅が咲き、時たま小鳥が飛び交う中、楽器と詩の響きがこちよく耳に入りました。全てが溶け合い、だれもが忘我の境地であったと思います。



雑木林を背景に演奏の、銭さん(笙)と馬さん(中国木琴)



様々な打楽器で演奏に効果を添える

演奏の締めはお二人の即興で静から動そして静へと見事な掛け合いで、演奏が終わっても一同しばらくシーンという放心状態でした。そして盛大な拍手のうちにコンサートは終了しました。

きょうのひとときは味覚、聴覚、視覚を満足させ、思い出深い一日となりました。演奏の方々、企画された方々、そして貴重な空間を提供していただいた乃平庵に心より感謝いたします。(佐々木真理子)